

開 会 挨 拶

広島大学経済学部長 平 木 秀 作

本日は、年末のたいへんご多忙のところ、広島大学経済学部
附属地域経済システム研究センター、地域経済研究推進協議会、
地方シンクタンク協議会中国・四国ブロック並びに中国地域シ
ンクタンク協議会の共催によります、第14回研究集会にご出席
いただき、誠にありがとうございます。

ご承知の通り、地域経済システム研究センターは平成11年に
設置されました。前身の広島大学経済学部附属地域経済研究セ
ンターが10年の時限を迎えるにあたり、地元各界の多大のご支
援・ご要望により、改組・新設されたものであります。この間、地域経済研究センター
の初代センター長の櫛本功教授が提唱されました、「地域のことは地域で考える」「産官
学の連携」という、二つのモットーの下で、地元各界の絶大なるご支援の下に、歴代セ
ンター長、次長、センター助手並びに研究員、客員研究員の皆様の多大のご尽力により、
研究集会をはじめ、シンポジウム、セミナー等、多彩な行事を開催して、地元経済の活
性化に寄与して参りました。この席をお借りして、改めて皆様に厚く御礼申し上げます。



今、国立大学は大きな転機を迎えています。即ち、平成16年度から全ての国立大学は
独立行政法人に移行し、財政面でいっそうの自助努力を要請されます。また、広島大
学は大学院部局化に向けて最後の山を迎えています。残された三つの学部、総合科学部、
法学部、それに我が経済学部と、独立研究科である国際協力研究科を加えた4つの部局を
改組発展させて、平成16年度から大学院講座化を目指して、現在、新研究科構想を検討
致しております。一方では、構造改革の一環として、世界最高水準の大学創りプログラ
ム、いわゆる遠山プランなるものが提唱されまして、各大学はトップ30に入るべく凌ぎ
を削ることとなりました。すでに大学評価、学位授与機構による教育・研究・社会貢献
等、各分野での評価も始まっています。大学がビッグバンに入り、生き残りをかけた競
争の時代に入っています。このような激動の時代に、当センターが果たす役割は実に大
きいものがあると言えます。ご関係の皆様には引き続き、温かいご支援ご鞭撻を賜りま
すよう宜しくお願い申し上げます。

今回の研究集会は、「歴史的な大転換の時代を迎え、中国・四国地域経済のこれからを
考える」をテーマに、本日で明日の2日間にわたり、基調講演、パネル討論会、研究報
告をいただくことになっています。本日はこれから島根県立大学総合科学部・三本松進

教授より、「イノベーション志向型の地域産業社会の構築」をテーマに基調講演をいただきます。基調講演を受けまして、引き続き、産業技術総合研究所・上嶋英機研究コーディネータ、中国地方総合研究センター・伊藤敏安地域経済研究部長、広島大学国際協力研究科・金原達夫教授、社会科学研究科マネジメント専攻・高原一隆教授の4方にパネラーになっていただき、三本松教授を助言者として、また地域経済システムセンター長・戸田常一教授をコーディネータとしてパネル討論会を開催致します。三本松教授をはじめ討論者の方々には、ご多用中のところをお出ましいいただき、誠にありがとうございます。活発な討論がいただけるものと楽しみにしております。また明日は、様々な角度から午前・午後合わせて7件の研究発表をしていただきます。報告者はもとより座長、討論者の方々には、諸事ご多忙の中、また遠路わざわざお越しいいただきまして、誠にありがとうございます。

今回の研究集会が地域の発展に寄与すると共に、ご出席の皆様にとって意義あるものであることを確信いたしております。本日はありがとうございました。



開 会 挨 拶

中国経済連合会専務理事

地域経済研究推進協議会会長 林 憲 弘



ただいまご紹介をいただきました地域経済研究推進協議会の会長をおおせつかっております、中国経済連合会の林でございます。

皆様方におかれましては、平素より、当協議会の活動に対しまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。また、本日は、年末のたいへんご多忙の中、第14回研究集会に多数ご出席を賜り、心からお礼申しあげます。

早いもので、昨年の研究集会から1年経過し、今年度も研究集会を迎えました。

前回の第13回研究集会は、昨年9月22日から24日までの3日間、日本計画行政学会第23回全国大会と併せて開催されました。17年ぶりの広島市での全国大会の開催となったわけですが、「21世紀の地域システムと計画行政」というテーマのもと、特別講演、記念講演、シンポジウム、研究報告などを実施し、熱心な討論が行われ、たいへん充実した大会となりまして、日本計画行政学会の熊田会長、それから事務局の方から「産官学を見事に連携させた一つの典型としての大会」として、高い評価をいただきました。

さて、本日の第14回研究集会の共通テーマは「歴史的な大転換を迎えてのこれからの中国・四国地域経済を考える」でございます。

本日、基調講演をいただきます島根県立大学の三本松先生、そのあとのパネルディスカッションでパネラーをお務めいただく広島大学の金原先生、高原先生、また産総研の上嶋先生、中総研の伊藤先生におかれましては、大変お忙しい中、おいでをいただきまして、厚くお礼申し上げます。

現在、私どもが一番大きな課題として考えておりますのが「産業」の問題であります。政府におきましては、行政改革・財政構造改革・不良債権処理・地域経済再生のためのイノベーション・新産業創出などの構造改革に取り組んでいるところでございますが、経済の状況は大変厳しい状況にあります。21世紀に入りまして、成熟経済のもとに新しい経済システムをいかに構築するか、また、既存産業の集積を活かしながら、かつ産学官の連携を促進し、新産業・新事業の創出をいかにはかっていくかということが喫緊の課題となっております。ご承知の方もいらっしゃると思いますが、内閣府の所管により

まして、産学官の促進のためのサミットを開催することになっており、すでに11月19日には東京でサミットが開催されております。

中国地方におきましても、中国経済産業局、地元の広島大学、それから中国経済連合会で事務局を構成しまして、準備を進めているところでございます。こうした産学官連携を促進いたしまして、ぜひ中身のある具体的なものとし、地域の振興につなげていきたいと考えているところでございます。

終わりになりますが、本日のシンポジウムの企画立案にあたりましては、地域経済システム研究センターの戸田先生をはじめ関係者のご尽力によるところが大きいわけでございます。本日ご出席の皆様へ地域経済システム研究センターに対する一層のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げる次第でございます。

今回の研究集会が実り多いものとなりますよう、心からお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

